

## 9月のコラム ～娘を医者と結婚させたい！？～

コロナ禍で、結婚相談所では親御さんからの問い合わせが目立つようになったという話を聞きました。増えているのは、30～40代の娘さんに関する相談だとか。

今は、同居しているし、経済的な援助もできるが「自分が死んだらこの子は食べていけるのだろうか」と不安が募り、「結婚して生活を安定させてほしい」と考えているようです。

確か大震災が起こったときも結婚が増えたというようなことがあったと思います。危機に直面し、不安な状況に陥ると信頼し合い、共に歩いていけるパートナーがいることの重要性を実感することになるのでしょう。が、記事によると「とにかく娘を医者と結婚させたい」というのが親の希望だそうです。もちろん理由は、経済的な安定。一般的に、女性が結婚に求める一番の重要ポイントは、やっぱり経済力なのですよ。

女性は非正規が多く、コロナ禍で職を失ったり、非正規雇用で収入が減ったりと、もともと不安定でもあります。今や性差による学歴や成績、実力が明らかに異なるわけではないのに、やはり女性に経済力がなく、結婚に経済的安定を求めざるを得ないケースが多いという現実が改善されないのは、寂しいなあと思います。

実際には、男性も病気になったり、職を失ったりすることがあるので、お互いに助け合えるだけの力を持つことが必要なのですが……。結婚相談所にいく親御さんも別に経済力だけを求めているわけではないと思いますが、そこにこだわってしまうと選択肢が狭まってしまいます。

晩婚化、少子化は進む一方です。それに合わせて不妊治療に係る問題も深刻になってきており、企業でも両立支援策が求められているところです。ちなみに101人以上の企業に策定・届出が義務化されている次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」にも、行動計画に盛り込むことが望ましい事項として、令和3年4月から「不妊治療を受ける労働者に配慮した措置」が追加されています。

男性は、妻子を養い続けるというプレッシャーから、女性は、家事や育児が大変そうだからという理由で、結婚に二の足を踏む時代はいつになったら解消されるのでしょうか。

「結婚したい！」「子どもを産みたい！」  
本人がそう望んだ場合には、安心して  
そうできる社会になって欲しいです。

2021年9月 水田かほる

